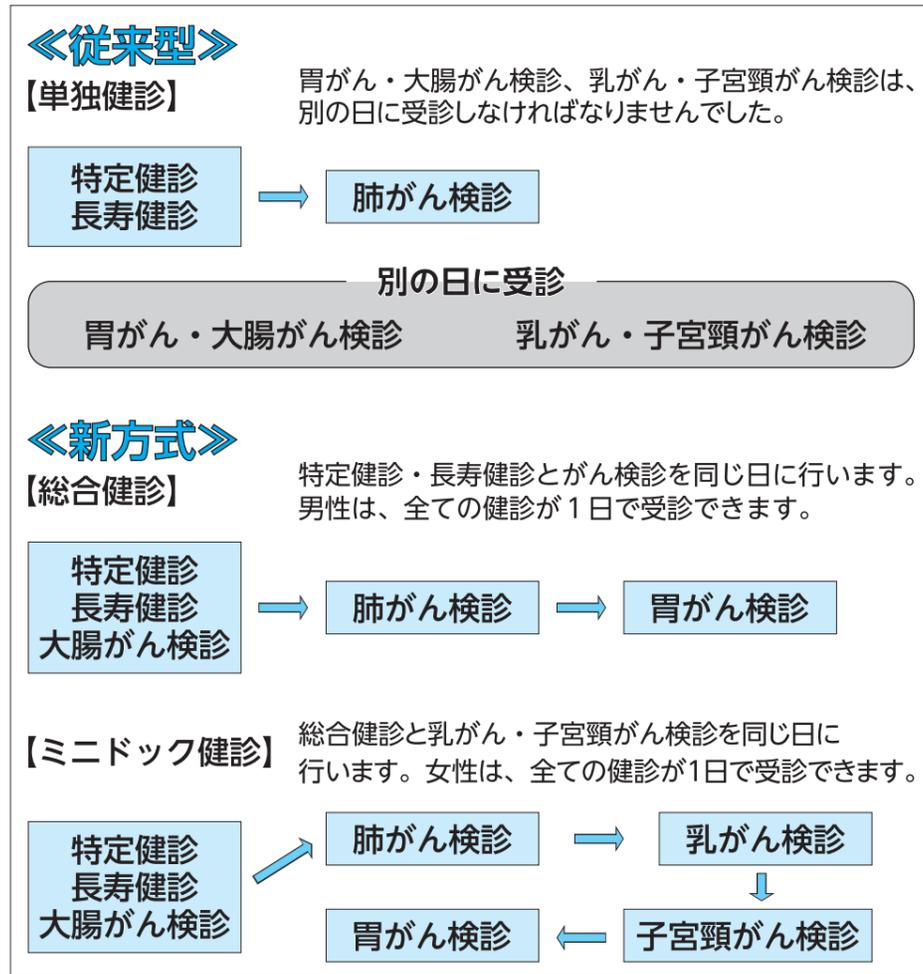


図 これまでの健診(従来型)と総合健診(新方式)の流れ



詳しくは、3月下旬に各世帯に配布した「成人健診日程表」をご覧ください。市役所健康福祉課健康推進係(☎:内線1172)まで。

26年度からの健診と受診する際の注意点など

名称	受付時間	受診のポイント
総合健診	午前7時から9時半まで	胃がん検診を受診しない人は、午前8時半以降に受け付けを行うと、待ち時間が少なくなります。
ミニドック健診		1日で全ての検診を受診したい女性向けの検診です。乳・子宮頸がん検診の受け付けは、午前8時からです。
夕方健診	午後5時から7時まで	仕事帰りに受診できる総合健診です。胃がん検診は受診できません。
夕方大腸がん検診		検診日の早朝に大腸がん検診の検体を提出に行けない人など向けです。8月下旬に行います。
乳・子宮頸がん検診	午前9時から10時まで 午後0時半から1時半まで (一部の会場では、午後1時から2時まで)	女性だけの検診ですので、気兼ねなく受診することができます。会場によっては、受け付けが午後になる場合があります。

**がん検診受診率向上のために**

国では、がん対策推進の一つとして「がん検診受診率50%」を目指しています。市でもがん検診の受診率を向上させるため、26年度から、特定

健診・長寿健診とがん検診を同時に受診できる「総合健診」を市内全地区で実施することにしました。これまでの健診と「総合健診」などの受診方法の違いは、左の図のとおりです。安代地区では、以前から「総合健診」を行っており、市内でも同地区の

がん検診受診率は高い傾向にあり、市内全地区で、この方式に統一することにしました。さらに、「総合健診」と乳・子宮頸がん検診を同時に行う「ミニドック健診」を3日間、仕事帰りに気軽に受けられる「夕方健診」を1日、大腸がん検診だけの検体提出日「夕方大腸がん検診」を2日間設けます。受診する際の注意点を下表に示します。

なお、職場や病院などでがん検診を受診する人は、市のがん検診を受診する必要はありません。

市のがん検診は、全て無料。国保の特定健診は、70歳未満で課税世帯の方は1人千円です。また、健診(検診)の実施期間は、4月下旬から8月中旬までと、例年より長期間としています。市内全地区での「総合健診」は、初めての取り組みです。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

## 健診(検診)の方法が変わります 西根・松尾地区でも総合健診を実施



26年度から特定健診・長寿健診とがん検診を同時に行う「総合健診」を市内全地区で実施します

### 市が実施したがん検診の結果

日本人の2人に1人が「がん」にかかるといわれています。「がん」は無症状のまま進行することが多く、これを早く発見するには、がん検診を受けることが大切です。

ところが、本市のがん検診は、対象者の約3割の人しか受診していません(平成24年度、下表のとおり)。本市では、各がん検診を通して毎年数人の人に「がん」が発見されており、受診した人の早期治療につながっています。特に近年は、「大腸がん」の発見率が高くなっているのが特徴です。

全国的にがんになる割合を比べると、肺がんや胃がん、大腸がんは、40代から年齢が上がるにつれて増加。乳がんは30代後半から増え始め、40代から50代で最も多くなります。また、子宮頸がんは、30代から増加傾向にあります。

平成24年度の市の各がん検診の受診状況

名称	受診対象者	受診者数	受診率	要精密検査者数	がん発見者数
肺がん検診	40歳以上	3,719人	35.6%	174人	1人
胃がん検診	40歳以上	2,609人	25.0%	202人	1人
大腸がん検診	35歳以上	3,600人	31.1%	197人	7人
乳がん検診	40歳以上の偶数年齢の女性	960人	33.2%	22人	3人
子宮頸がん検診	20歳以上の偶数年齢の女性	947人	29.8%	41人	1人

※ 対象者の他に、大腸がん・乳がん・子宮頸がん検診では、特定の年齢の人を対象に「がん検診無料クーポン」を配布しています。そのため、乳がん・子宮頸がん検診は、特定の条件の奇数年齢の方も対象となります。

「いつまでも健やかに生活する」には、健康的な生活習慣を継続することが大切です。そのためには、年に一度、特定健診・長寿健診・がん検診を受けて、自分の健康状態を確認しましょう。26年度の健診(検診)は、これまでの方法と変わり、特定健診・長寿健診とがん検診を同時に受診できる「総合健診」として実施します。ここでは、その内容を紹介します。